

IDDNewsletter..... 12

December
2022



特集1

「旅立ちの時」のちょっと、前

今年度も後半をむかえました。修了学年となる2年生は、進路決定に向けた活動が本格化しています。その中で、すでに来年4月からの就職が内定した在籍学生に、これまでの専攻科での学びや進路決定に向けた活動等について振り返っていただき、テキストにまとめていただきました。

特集2

校内グラフィックス・リノベーション

専攻科情報デザイン科の科目「DTP2」及び「グラフィックデザイン」においては、今年度、「給食だより」や「学校要覧」等の制作を通して、デザイン及びDTP、各種出版物のリトルプレスを学ぶ、OJT的な学習に多く取り組んでいます。そして、その一環として、専攻科棟内の各教室の室名札の制作に取り組みましたが、今回はその活動について御紹介いたします。

「旅立ちの時」のちょっと、前

今年度も後半をむかえました。修了学年となる2年生は、進路決定に向けた活動が本格化しています。その中で、すでに来年4月からの就職が内定した在籍学生に、これまでの専攻科での学びや進路決定に向けた活動等について振り返っていただき、テキストにまとめていただきました。



私は、医療事務の仕事を目指したいと考え、旭川にある病院で実習を1週間させていただきました。そして、10月に入社試験を受け、同月27日に内定をいただきました。このことを踏まえて、専攻科の学習で身につけた力など、経験を振り返ってみたいと思います。

私が専攻科情報デザイン科で得た力は、MicrosoftOfficeやAdobeCreativeCloudなど、様々なアプリケーションの操作技能や、正確かつ効率よく作業する力です。専攻科では、WordやExcelなど文書処理アプリを使った学習もあれば、IllustratorやPhotoshopなどグラフィックソフトを使った学習もあります。その学習を通して技術を身に付けたり、さらに向上したりすることができ、検定資格も取得できます。私は、積極的にWordやExcel、グラフィックソフトなどの操作に関する検定資格を多く取得しました。

ただ、アプリケーションを使って作業するだけでなく、任された仕事の内容をしっかりと把握し正確に作業する力、短時間に素早く終われるように効率よく作業する力も必要だと私は思います。

正確さを重視しながら、素早く作業するということは難しいことだと思います。実習では、その大変さを実感しました。

また、任された業務内容に疑問などがあれば、すぐ聞いて確認することで、相手と連携することができ、信頼につながります。責任を持って仕事に取り組むことの大切さを実感しました。それらに気づき、報告、連絡、相談することをしっかりと心掛け、正確かつ効率よく、丁寧に作業することに努めました。

私は、専攻科で得た力を今回の実習で生かすことができ、その結果、4月からの採用の内定をいただくことができました。コミュニケーションの面で不足のないように意識して、積極的に行動する力をさらに向上したいと思います。そして、残された学生生活を有意義に過ごしていきたいです。

本当に専攻科情報デザイン科に入ってよかったと思っています。

IDDN

特集2

校内グラフィックス・リノベーション

専攻科情報デザイン科の科目「DTP2」及び「グラフィックデザイン」においては、今年度、「給食だより」や「学校要覧」等の制作を通して、デザイン及びDTP、各種出版物のリトルプレスを学ぶ、OJT的な学習に多く取り組んでいます。そして、その一環として、専攻科棟内の各教室の室名札の制作に取り組みましたが、今回はその活動について御紹介いたします。

専攻科情報デザイン科の科目「DTP2」および「グラフィックデザイン」においては、専攻科2年生を対象に、1年次に身に付けた基礎的な知識技術をベースとしつつ、さらに発展・応用的な内容に取り組めます。特に、今年度は、本校が発行する「給食だより」や「学校要覧」等の制作を通して、デザイン及びDTP、製本作業（リトルプレス）各種出版物を学ぶ、OJT的な学習に多く取り組んでいます。

その一環として、専攻科棟内の各教室の室名札の制作を行っています。

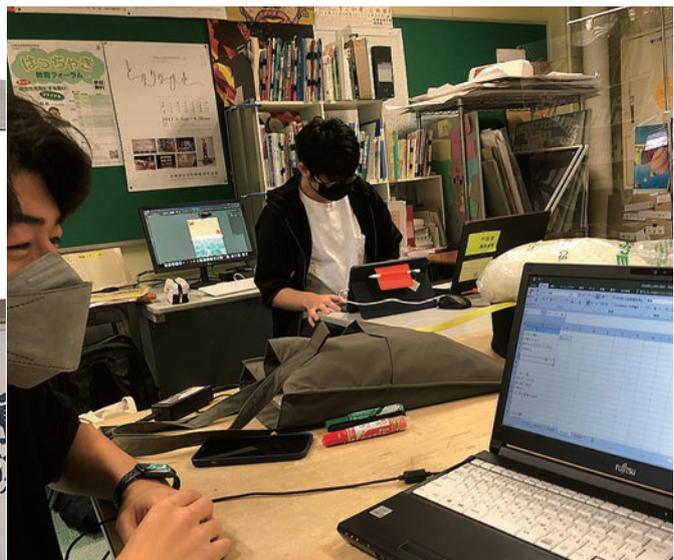
機能を同一にするエリアは、デザインに用いられる要素を統一させ、できるだけ同じデザインとして意識されるようにします。そして、領域同士の境界には、ここからは意味の異

なる領域になるのだと明瞭になるように、デザイン的な意味での「結界」をはるようになります。こうすることで、「機能」という不可視な要素が明示化されることになるわけですが、このような「明示化」のプロセスを情報デザイン科の学びでは極めて重視しています。

今回の制作では、3名の学生が、本科棟、専攻科棟、寄宿舎の3つのエリアをそれぞれの創造性を活かすようにデザインしていただき、サイン類として展開しています。

現段階では試験的な要素が強いですが、2年生が修了する来年春までには、最終的にはナンバリングや色の補正などのバリアフリーも施しながら、本校全体を構造的に再構築することを目指します。

IDDN



Contents

- 特集1**
2 「旅立ちの時」のちょっと、前
今年度も後半をむかえました。修了学年となる2年生は、進路決定に向けた活動が本格化しています。その中で、すでに来年4月からの就職が内定した在籍学生に、これまでの専攻科での学びや進路決定に向けた活動等について振り返っていただき、テキストにまとめていただきました。
- 特集2**
3 校内グラフィックス・リノベーション
専攻科情報デザイン科の科目「DTP2」及び「グラフィックデザイン」においては、今年度、「給食だより」や「学校要覧」等の制作を通して、デザイン及びDTP、各種出版物のリトルプレスを学ぶ、OJT的な学習に多く取り組んでいます。そして、その一環として、専攻科棟内の各教室の室名札の制作に取り組みましたが、今回はその活動について御紹介いたします。



Welcome to Information Design Department!!

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科学科だよりをお読みいただきまして、ありがとうございます。

本校情報デザイン科では、広く全国から学生を受け入れています。聴覚障がいがあり、高等学校や中等教育学校等の卒業生（卒業見込みを含む）であれば、どなたでも出願資格があります。年齢も不問です。

授業料がかからないことに加え、低コストで、専門的な知識や技術を学べます。支援制度については、就学奨励費等の帰省や通学、食事等に関わるものがあります。また、寄宿舎があり、道内外問わず入舎が可能ですし、土日祝日も開舎していますので遠方からの入舎も安心です。本校情報デザイン科に興味がある方は、ぜひ本校までご連絡いただければと存じます。詳しくは、本校 Web サイトの情報デザイン科のページを御覧ください。

専攻科情報デザイン科の特徴

- ・高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。（いわゆる「準ずる教育」の教育課程です）
- ・授業料が全くなからず、材料費等も非常に低コスト^(注3)で、対費用効果の高い学びができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象^(注4)となっており、支援制度等も充実しています。
- ・DTP や Web に係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。（例えば、Web であれば、HTML5 と CSS3 を使い、セマンティックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトや center タグは使いません！）
- ・デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」^(注5)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度をはっきり理解できるように学びます。
- ・学生のこれまでの学びの環境や積み重ね（「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等）に合わせた教育方法を準備します。
- ・筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- ・修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスを受けたり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い^(注6)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「(社会にとって、自分にとって)やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に進路選択できるようにしていきます。

ファックス：0134-62-2663

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624

※入試前まで教育相談等に対応できます。

一人一人に合った指導方法を準備するために、できるだけ入試前に教育相談にお越しになることをおすすめいたします。

情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

December 2022 12

IDDNewsletter

December 2022

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。